



2021年3月期 決算説明資料

2021年6月9日
テイカ株式会社
(証券コード：4027)

目次

1. 2021年3月期 決算概要

- P 4 決算概要
- P 5 事業別売上高・営業利益
- P 6 機能性材料事業 売上高、営業利益増減要因
- P 7 電子材料・化成品事業 売上高、営業利益増減要因
- P 8 売上原価率、販管費率、営業利益率の推移
- P 9 営業外損益、特別損益
- P 1 0 2021年3月期 貸借対照表
- P 1 1 2021年3月期 キャッシュフロー計算書

2. 2022年3月期 業績予想

- P 1 3 2022年3月期 業績予想
- P 1 4 2022年3月期 業績予想(事業別売上高、営業利益)
- P 1 5 機能性材料事業 業績計画
- P 1 6 機能性材料事業 営業利益増減要因
- P 1 7 電子材料・化成品事業 業績計画
- P 1 8 電子材料・化成品事業 営業利益増減要因
- P 1 9 経営指標

3. 付属資料

- P 2 1 長期経営ビジョン
- P 2 2 中期経営計画
- P 2 3 設備投資・減価償却費・研究開発費
- P 2 4 株主還元(配当金)
- P 2 5 会社概要
- P 2 6 事業紹介



1. 2021年3月期 決算概要

決算概要

新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、経済活動や社会生活全般に大きな影響を受け、わが国も景気は急速に悪化しました。

このような状況の中、当社は導電性高分子薬剤の販売が堅調に推移し、汎用用途の酸化チタンの販売も期後半から回復の兆しは見られたものの、機能性微粒子製品の販売は回復に時間を要する結果となりました。

2021年3月期 連結経営成績

	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	前期比 (%)
売上高（百万円）	45,435	38,402	△15.5
営業利益（百万円）	5,808	2,927	△49.6
経常利益（百万円）	5,798	2,740	△52.7
親会社株主に帰属する 当期純利益（百万円）	3,830	1,927	△49.7

事業別売上高・営業利益

(単位：百万円)	2020年3月期実績		2021年3月期実績		前期比（%）	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
機能性材料事業	24,564	3,331	19,442	912	△20.9	△72.6
電子材料・化成品事業	19,573	2,201	17,713	1,813	△9.5	△17.6
小 計	44,137	5,532	37,156	2,725		
その他	1,297	276	1,245	201	△4.0	△27.1
合 計	45,435	5,808	38,402	2,927	△15.5	△49.6

事業内容

【機能性材料事業】

主に酸化チタン、微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛、表面処理製品を製造、販売

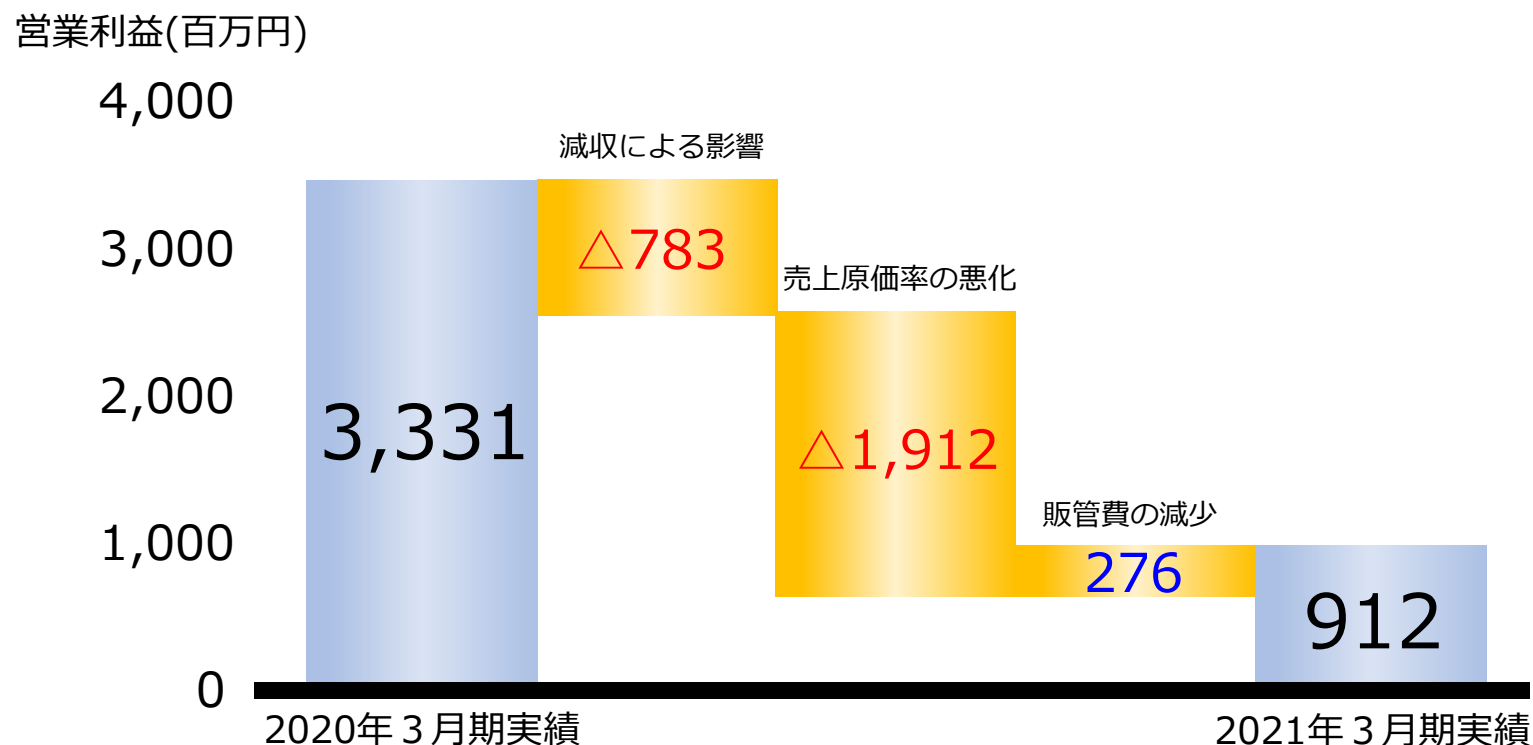
【電子材料・化成品事業】

主に圧電材料、導電性高分子薬剤、界面活性剤、硫酸、無公害防錆顔料を製造、販売

なお、「その他」は、倉庫業、エンジニアリングおよびセグメント間取引消去額を含んでおります。

機能性材料事業 売上高、営業利益増減要因

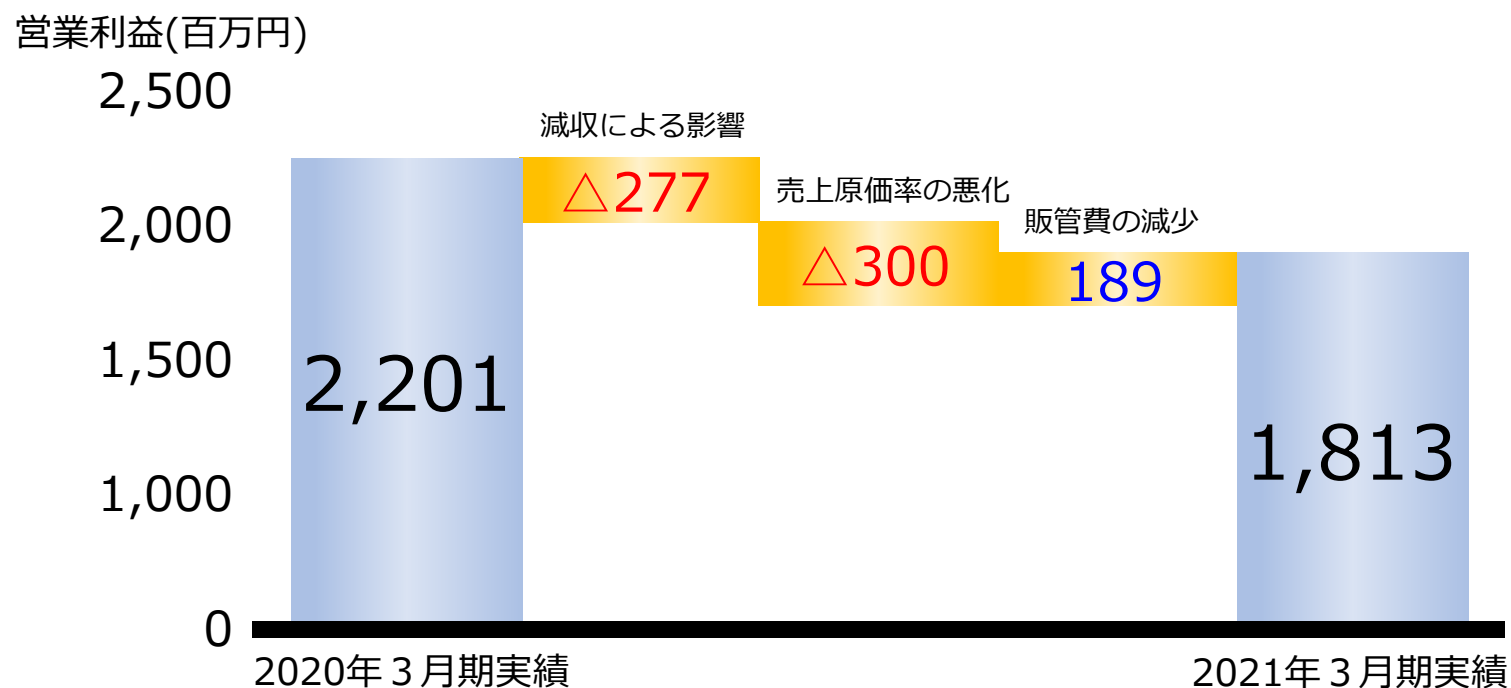
- 汎用用途の酸化チタンは、期前半の建築・自動車需要低迷の影響が大きく、販売数量、売上高ともに前期を下回りました。
- 機能性用途の微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛及び表面処理製品は、外出自粛やインバウンド需要の消失等の影響を受け、主用途のUVカット剤の需要が落ち込み、販売数量、売上高ともに前期を下回りました。



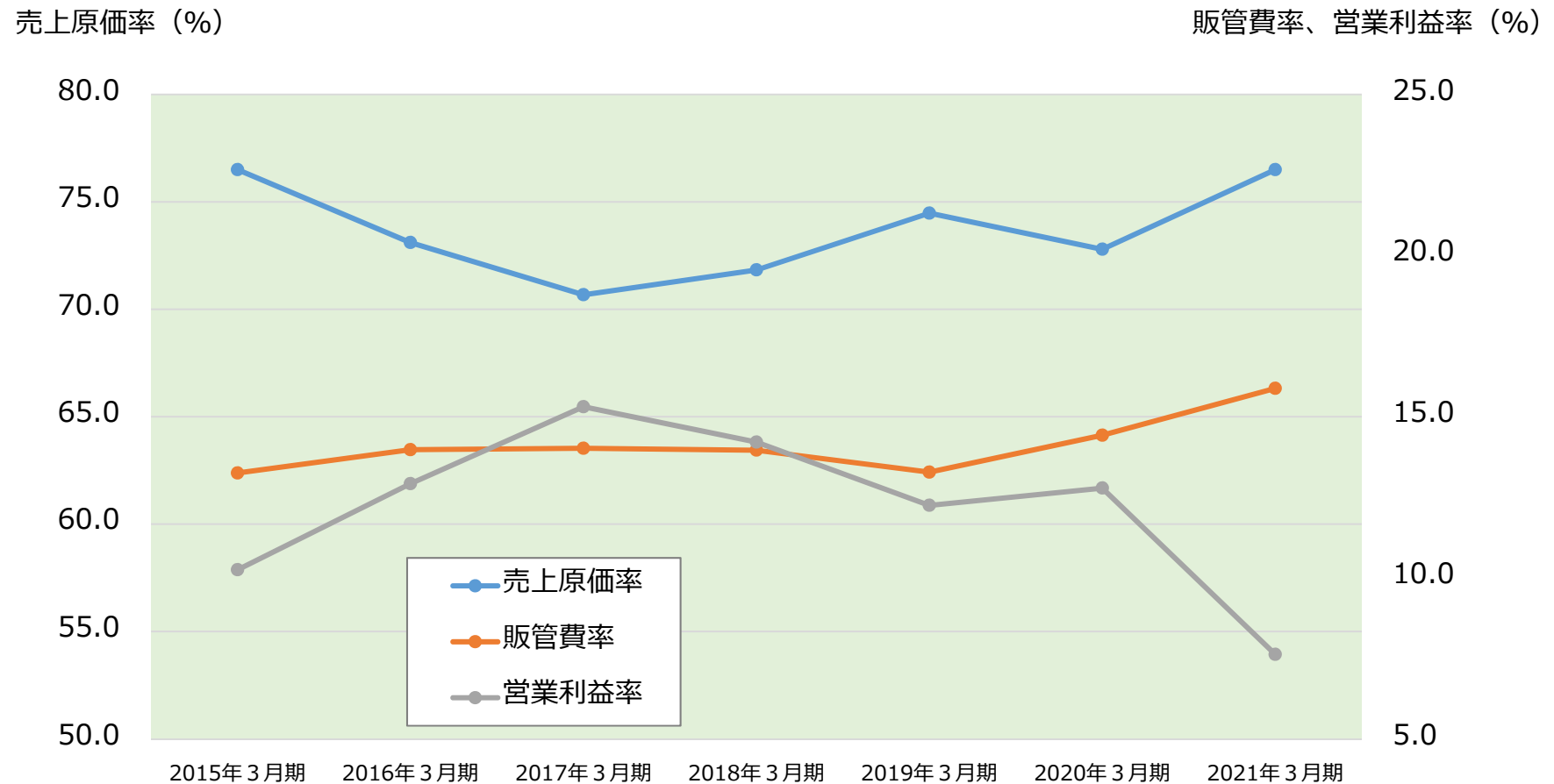
(注)2021年3月期実績には営業外費用に操業休止関連費用826百万円を計上しております。

電子材料・化成品事業 売上高、営業利益増減要因

- 圧電材料は医療機器用の海外顧客向け販売は堅調に推移したものの、一部顧客での在庫調整の影響を受け、販売数量、売上高ともに前期を下回りました。
- コンデンサ向けの導電性高分子薬剤は、車載向けの販売は減少しましたが、在宅勤務の増加等によりパソコン向けが好調に推移しましたことにより、販売数量は前期より増加、売上高は前期並みとなりました。
- 界面活性剤は外食需要の低迷により業務用洗剤向けの販売が減少し、販売数量、売上高ともに前期を下回りました。
- 硫酸及び無公害防錆顔料は需要低迷の影響を受け、販売数量、売上高ともに前期を下回りました。



売上原価率、販管費率、営業利益率の推移



営業外損益、特別損益

【営業外損益】

受取補償金等の収益はあったが、工場一時帰休による損失が発生しました。

科目 (百万円)		2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	前期比
営業外損益	金融収支	182	165	△17
	為替差損益	△87	24	111
	受取補償金等	—	282	282
	操業休止関連費用	—	△826	△826
	その他	△106	168	274
	計	△10	△186	△175

【特別損益】

本社移転に伴う収支はプラスであったが、固定資産除却損が前期に比べて増加しました。

科目		2020年3月期	2021年3月期	前期比
特別損益	投資有価証券売却益	425	129	△296
	本社移転補償金・費用	—	167	167
	固定資産除却損	△162	△261	△99
	出資金評価損	△25	△48	△22
	減損損失	△309	—	309
	その他	△18	—	18
計		△90	△12	78

2021年3月期 貸借対照表

- 現預金は前期末比2.5億円増の13.3億円、売掛債権は1.9億円減の11.3億円、有形固定資産は1.7億円増の17.6億円、投資その他資産は3.5億円増の12.8億円であります。

科目 (百万円)	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	前期比	科目 (百万円)	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	前期比
流動資産	36,261	36,979	718	負債	16,613	18,947	2,333
現預金	10,792	13,329	2,537	買掛債務	4,787	3,914	△872
売掛債権	13,302	11,395	△1,906	有利子負債	3,132	6,543	3,411
棚卸資産	11,623	11,623	△0	引当金	407	350	△57
その他	543	631	88	退職給付に係る負債	3,236	3,152	△83
固定資産	27,293	32,198	4,904	その他	5,049	4,986	△62
有形固定資産	15,901	17,624	1,723	純資産	46,940	50,230	3,289
無形固定資産	2,133	1,767	△366	株主資本	42,714	43,714	999
投資その他資産	9,258	12,806	3,548	その他包括利益累計額	3,885	6,173	2,288
資産合計	63,554	69,177	5,623	資産合計	63,554	69,177	5,623

2021年3月期 キャッシュフロー計算書

- 当期は営業CFの減少分を投資CFの抑制でほぼカバーし、資金調達による財務CFで現金等が増加しました。

(百万円)	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	前期比
営業キャッシュフロー	5,165	4,952	△212
税金等調整前当期純利益	5,708	2,728	△2,979
減価償却費	2,590	2,737	147
運転資金等	△1,421	866	2,288
法人税等支払額	△1,711	△1,380	330
投資キャッシュフロー	△5,498	△4,905	593
固定資産の取得・売却	△5,534	△4,857	676
投資有価証券の取得	△11	△6	5
投融資資金等	46	△40	△87
財務キャッシュフロー	△2,346	2,519	4,865
借入金・社債増減等	△875	3,449	4,325
自己株式所得	△667	△0	667
配当金支払額	△803	△929	△126
現金及び現金同等物に係る換算額	4	△29	△33
現金及び現金同物の増減額	△2,675	2,537	5,212
現金及び現金同等物の期末残高	10,713	13,250	2,537



2. 2022年3月期 業績予想

2022年3月期 業績予想

今後の経済見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染症の新たな変異株等による感染の再拡大の懸念もあり、先行きは不透明な状況で推移すると予想されます。

2022年3月期 連結業績予想

	2021年3月期 実績	2022年3月期 予想	増減 (%)
売上高（百万円）	38,402	42,200	—
営業利益（百万円）	2,927	2,200	—
経常利益（百万円）	2,740	2,800	—
親会社株主に帰属する 当期純利益（百万円）	1,927	1,800	—

(注)2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっており、対前期増減率は記載しておりません。

2022年3月期 業績予想(事業別売上高、営業利益)

【機能性材料事業】

機能性材料事業は増収となるも、減益の計画であります。

【電子材料・化成品事業】

電子材料・化成品事業は増収となるも、減益の計画であります。

(単位：百万円)	2021年3月期実績		2022年3月期予想		増減 (%)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
機能性材料事業	19,442	912	21,000	250	—	—
電子材料・化成品事業	17,713	1,813	20,600	1,500	—	—
小 計	37,155	2,725	41,600	1,750	—	—
その他	1,245	202	600	450	—	—
合 計	38,402	2,927	42,200	2,200	—	—

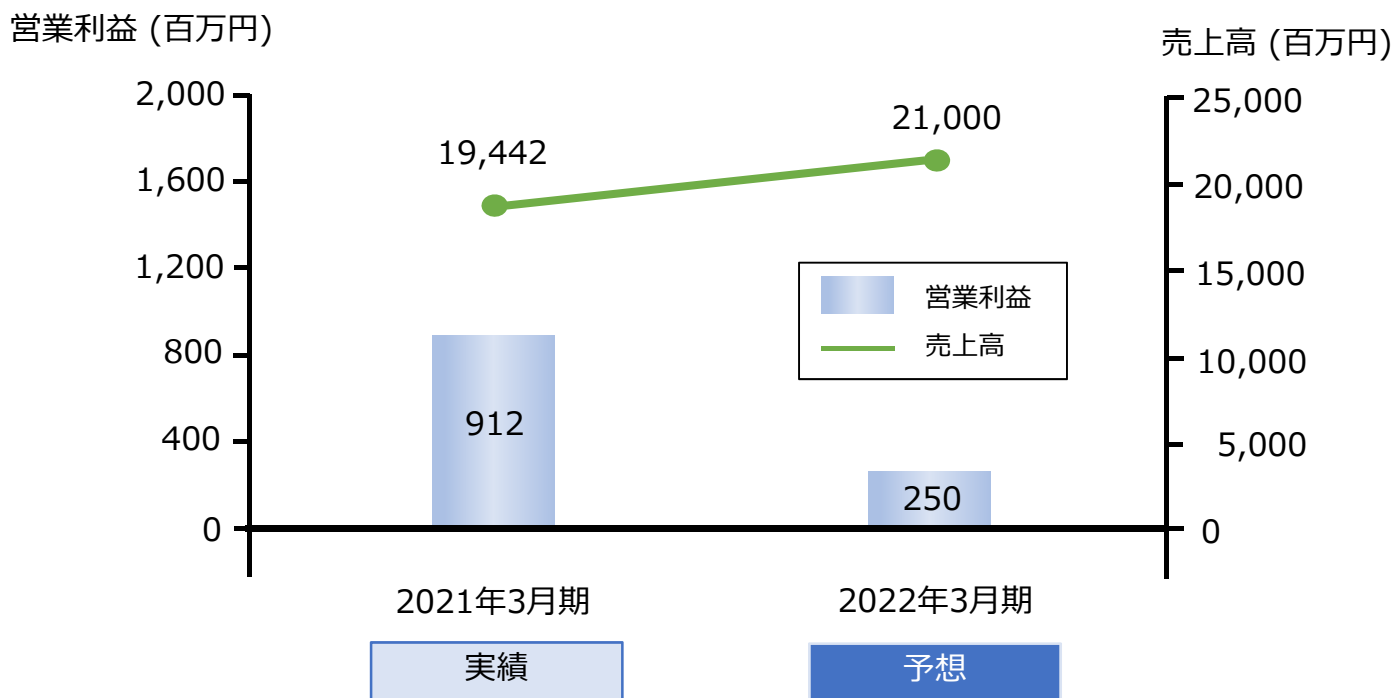
(注)2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっており、対前期増減率は記載しておりません。

機能性材料事業 業績計画

【事業環境の見通し】

汎用用途の酸化チタンに関しましては、需要回復の兆しはあるものの、原燃料価格の高騰により、今後も収益面で厳しい状況が続くものと予想しております。

機能性用途の微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛および表面処理製品に関しましては、世界的なコロナウイルス感染症拡大の影響を受け、主用途であるUVカット剤需要は低迷していますが、今後欧米を中心にワクチン接種の拡大により、徐々に需要は回復するものと予想され、市況を注視しつつ販売維持拡大に努めてまいります。

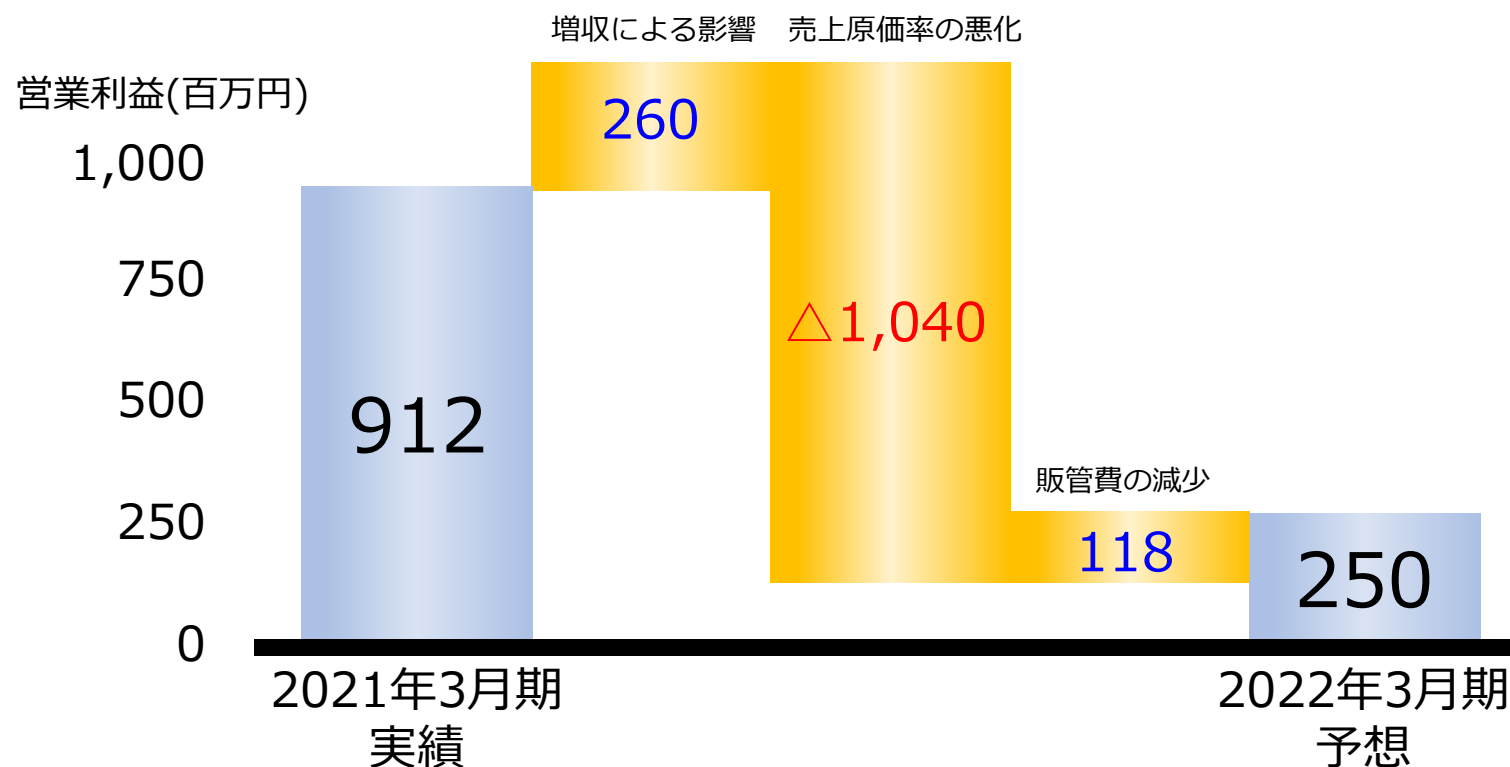


(注)2021年3月期実績には営業外費用に操業休止関連費用826百万円を計上しております。

機能性材料事業 営業利益増減要因

【営業利益】

販売は回復するものの、原油価格の高値推移や設備償却費負担の増加が利益を押し下げる見通しであります。

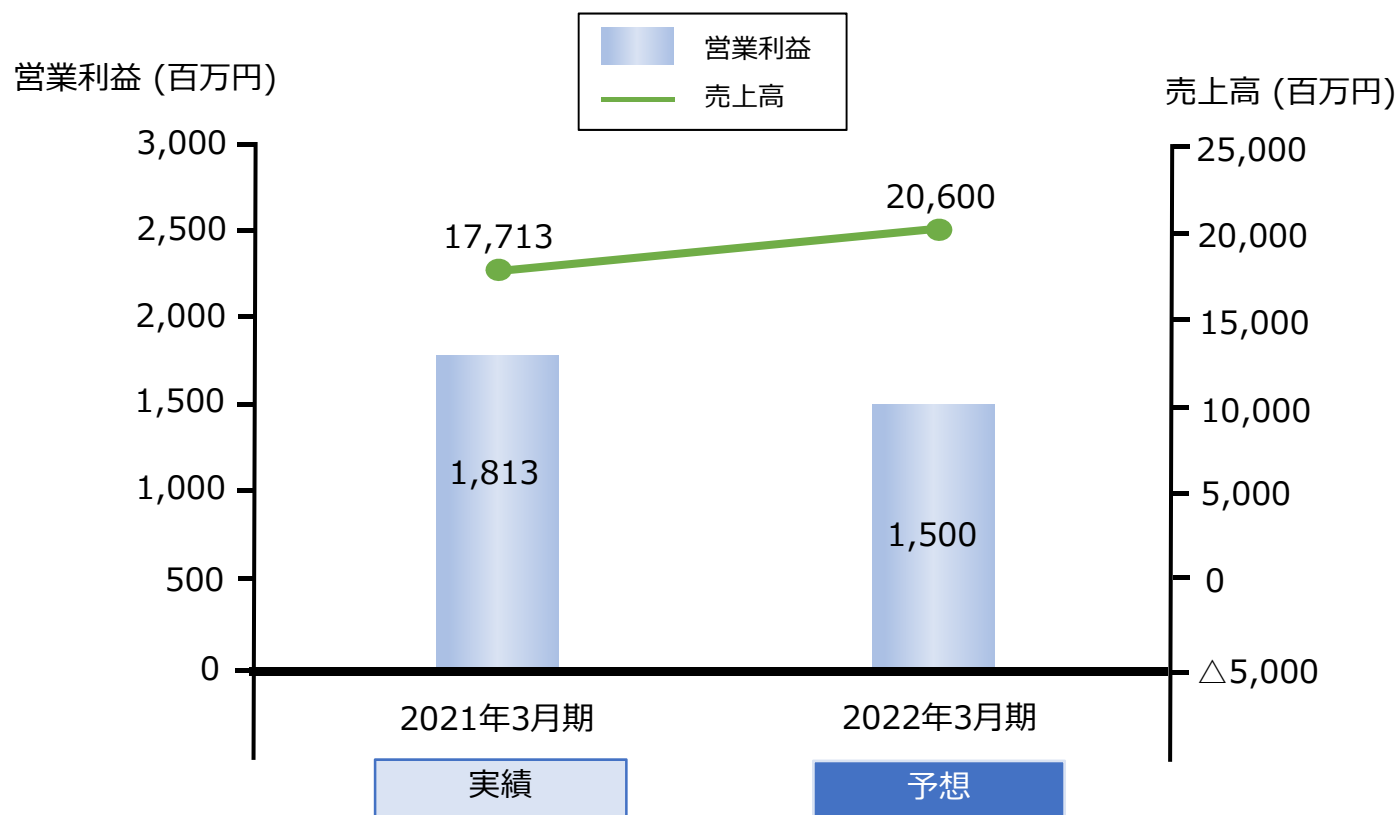


(注)2021年3月期実績には営業外費用に操業休止関連費用826百万円を計上しております。また、売上原価率の悪化要因には、一時帰休による営業外振替分826百万円を含んでおります。

電子材料・化成品事業 業績計画

【事業環境の見通し】

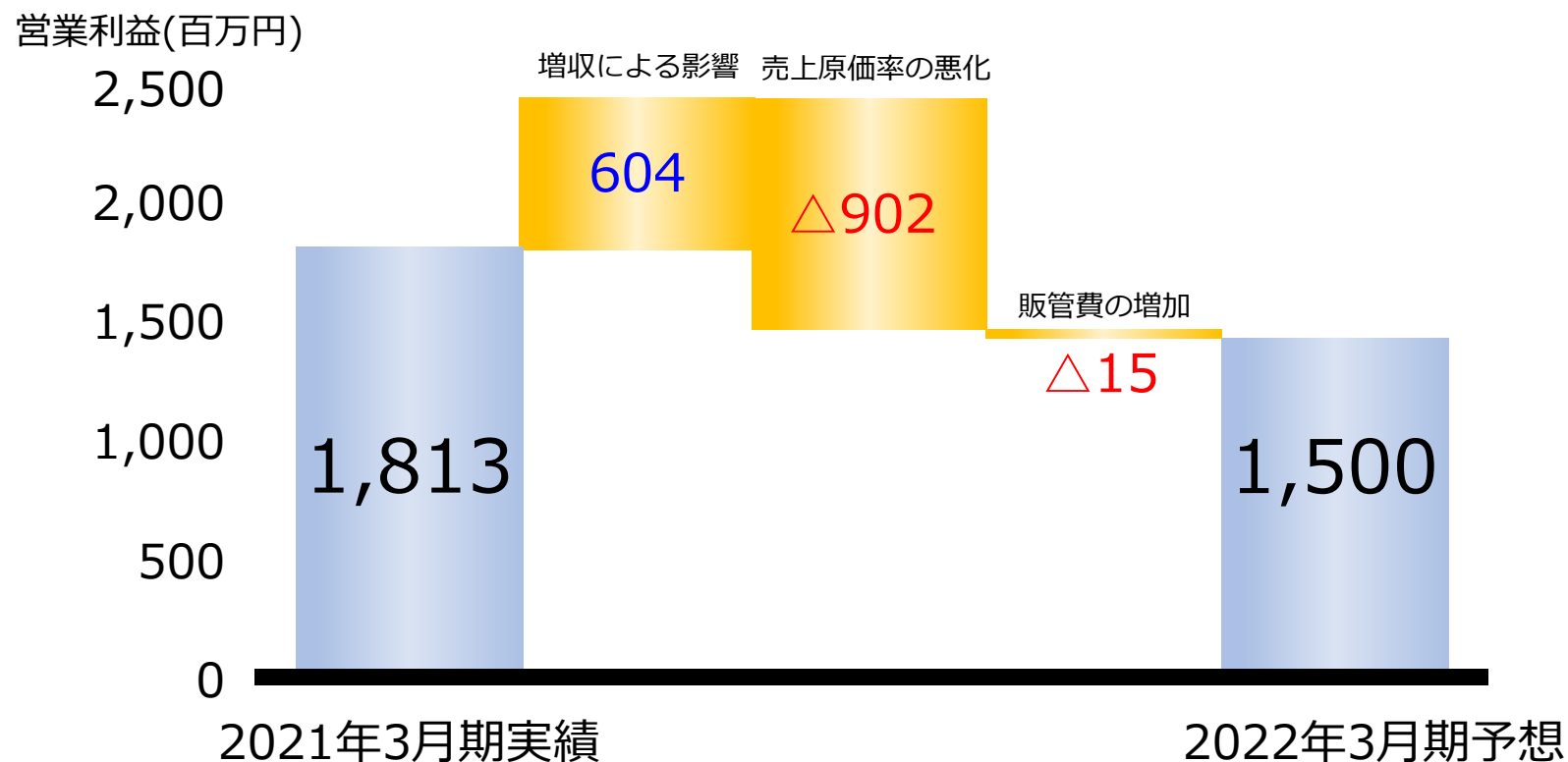
医療器用向け電子材料に関しましては、今後も需要は好調に推移するものと予想しており、更なる拡販に努めてまいります。また、化成品事業に関しましては、洗剤など日用品向けの需要は堅調に推移するものと予想しております。



電子材料・化成品事業 営業利益増減要因

【営業利益】

販売は増加するものの、原料価格の高値推移による売上原価率の悪化が利益を押し下げる見通しであります。



経営指標

● 経営指標

	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	2022年3月期 予想
1株当たり当期純利益（円）	163.70	83.16	77.67
自己資本利益率（ROE）	8.4	4.0	3.4
総資本経常利益率（ROA）	9.1	4.1	3.8
売上高営業利益率	12.8	7.6	6.6
自己資本比率	73.3	72.1	73.7



3. 付属資料

長期経営ビジョン

収益性を重視した活動を行い、汎用品から機能品へポートフォリオシフトを加速することで更なる業容拡大と収益基盤の強化を努めます。

(1) 基本方針

「まじめに感動素材」のもと、お客様と真摯に向き合い、妥協なく試行錯誤を行う中から、よりよいソリューションを実現します。

(2) **MOVING-10**の目指す経営指標

10年後の164期（2029年度）に以下の経営指標を目指します。

目標経営指標	目標値
営業利益率	15%以上
ROE	12%以上

中期経営計画

「変革による拡大」と「新素材の創出」に重点的に取り組むことで、長期経営ビジョン達成に向けた業容拡大と収益基盤の強化を図ります。

(1) 活動のポイント

- ① 機能性化学品および電子材料事業の更なる拡大（ポートフォリオシフト加速）
- ② 環境エネルギー分野の育成、上市（次世代担う2本目の柱）
- ③ 新たな素材の創出促進（キーワード 「ニッチ市場」×「伸長分野」）
- ④ 業務効率化の推進（生産性向上、自動化）
- ⑤ 人財育成の推進（ダイバーシティ、働き方改革）
- ⑥ S D G s 経営推進による企業価値向上

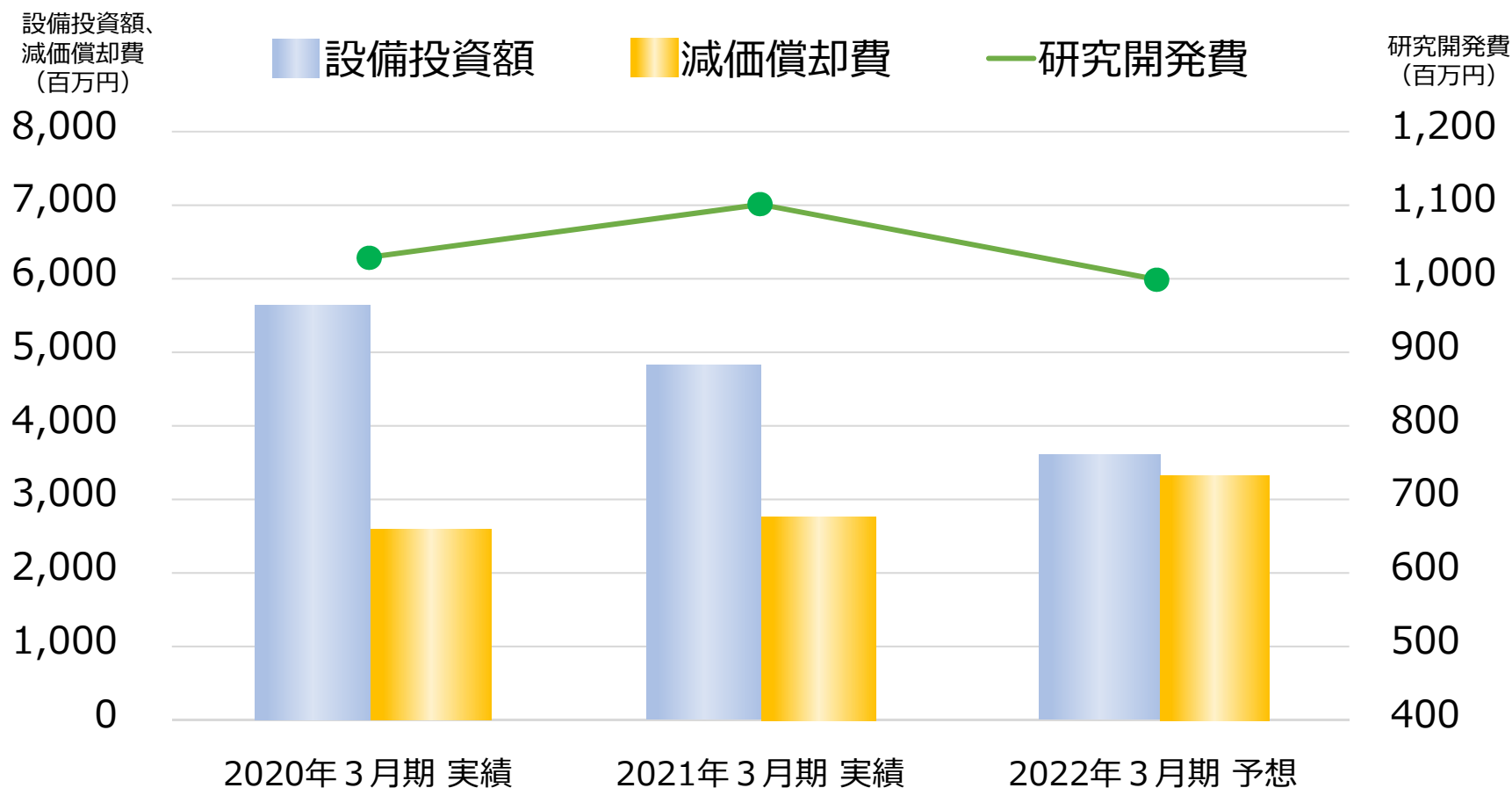
(2) 目標経営指標

目標経営指標	最終年度 2024年3月期
売上高	5 5 0 億円
営業利益	7 5 億円
営業利益率	1 4 %
R O E	9 %
E B I T D A	1 1 0 億円

設備投資・減価償却費・研究開発費

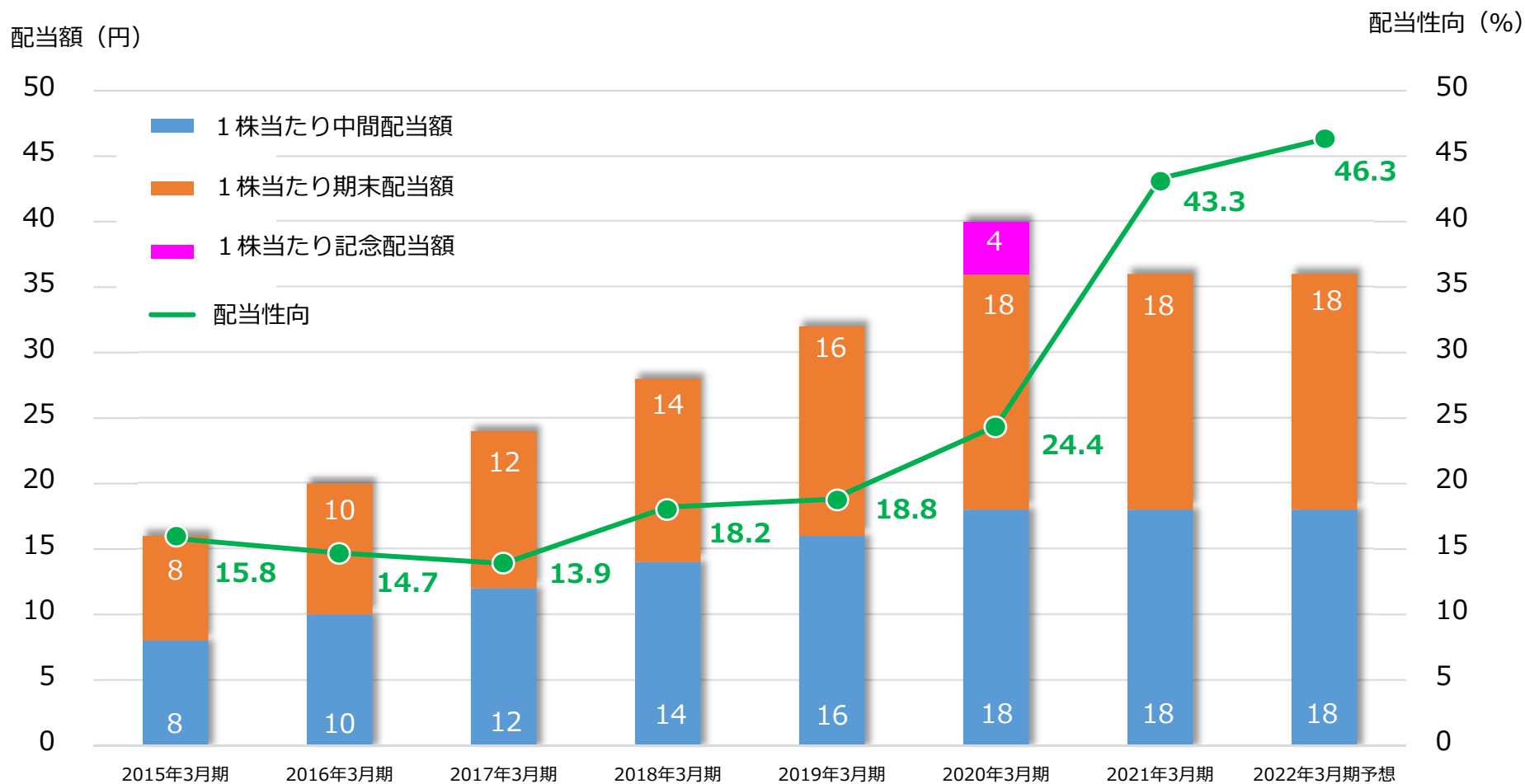
【設備投資額、減価償却費、研究開発費について】

設備投資額については、2021年3月期には機能性微粒子製品製造設備の増設工事が完了し、2022年3月期には圧電単結晶材料製造設備の新設工事が完了予定であります。



株主還元(配当金)

- 当社は基本的に株主に対する安定した利益還元を重要項目と認識し、必要となる十分な株主資本の水準を保持するとともに、各期の業績等を総合的に判断して配当を実施することとしております。



会社概要

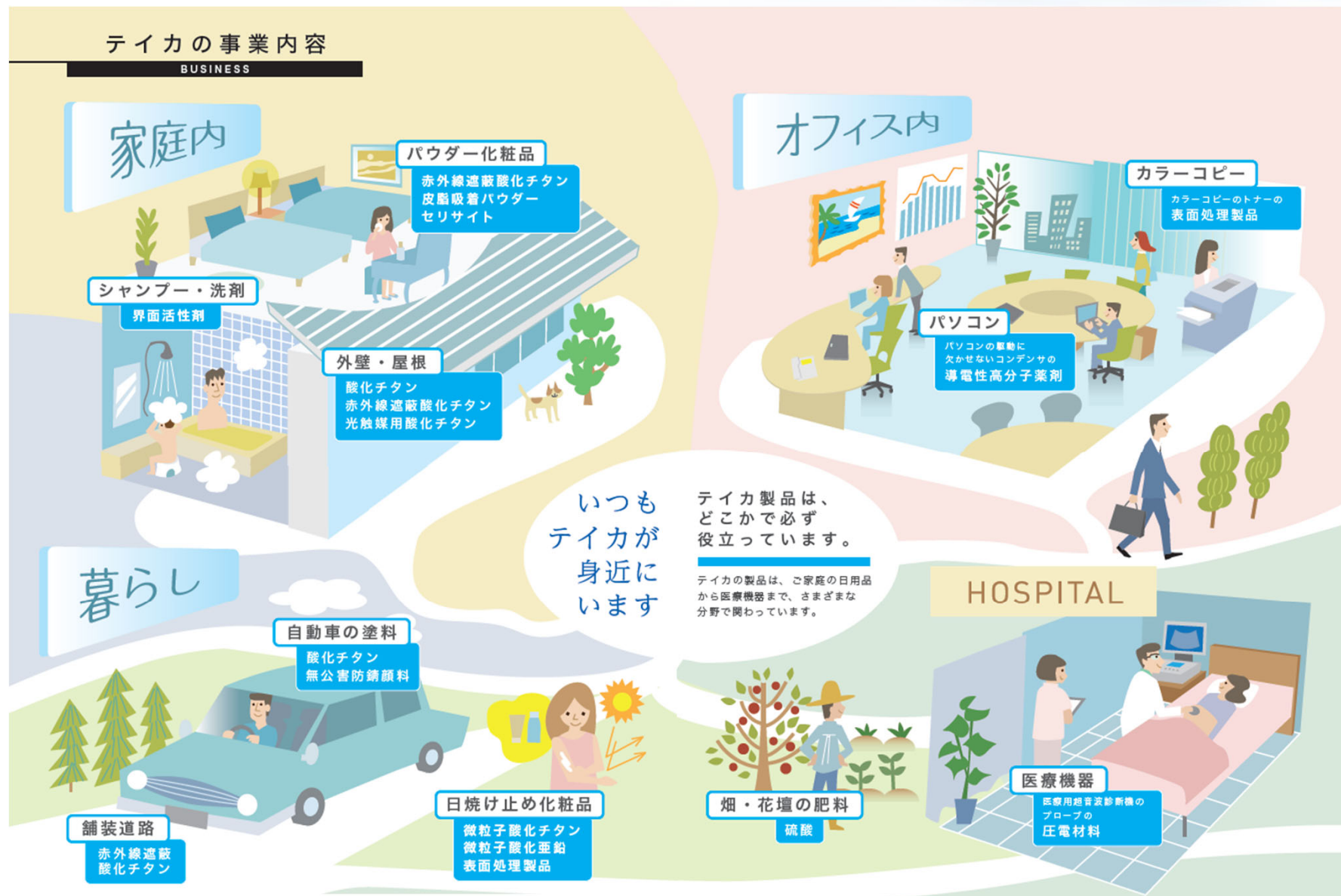
- 社名 テイカ株式会社 TAYCA CORPORATION
- 創立年月日 1 9 1 9 年（大正 8 年） 1 2 月 2 2 日
- 資本金 資本金 9 8 億円
- 年商 3 8 4 億円（連結 2021年3月期）
- 従業員数 8 3 3 名（連結 2021年3月31日現在）
- 上場証券取引所 東京証券取引所 市場第 1 部
- 事業内容

各種化学工業薬品の製造、販売

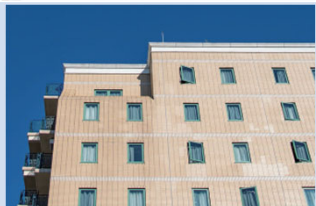
酸化チタン、微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛、表面処理製品、

圧電材料、導電性高分子薬剤、界面活性剤、硫酸、無公害防錆顔料 等

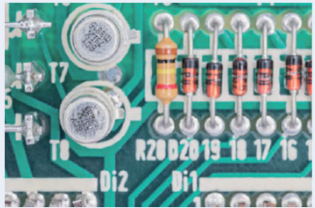
事業紹介



事業紹介（機能性材料事業）

	製品名	用途	概要
機能性材料事業	酸化チタン		酸化チタンは優れた白色顔料として、塗料、インキ、プラスチック、化学繊維、製紙など白いものはもちろん、色のついたもののほとんどに使用されています。 また、白色度、着色力、安全性、化学的安定性など優れた性質をもち、社会のあらゆる分野で役立っています。
	微粒子酸化チタン		微粒子酸化チタンは、一般の白色顔料用酸化チタンに比べてはるかに小さい10～50nmの粒子径を有する超微粒子であるため、例えば、可視光線部における光透過性と紫外部での光遮蔽性が大きい等の特徴ある性質を備えており、しみの原因となる紫外線UVBの遮蔽性に優れています。
	微粒子酸化亜鉛		微粒子酸化亜鉛は、微粒子酸化チタン同様、優れた紫外線遮蔽能力を持つ機能性粉体です。微粒子酸化チタンと比較して、可視部における透明性が高く、しわ、たるみの原因となる紫外線UVAの遮蔽性に優れています。
	表面処理製品		微粒子酸化チタンや微粒子酸化亜鉛等の無機粉体が持つ優れた特徴を最終製品で発揮できるよう、各種有機化合物で表面処理した粉体製品です。表面処理を行うことにより、粉体表面が親水性や親油性に改質され、耐光性や分散性などの特長を付与できます。化粧品原料、プリンターのトナー用外添剤はじめ幅広い分野で使用されています。
	光触媒用酸化チタン		光触媒用酸化チタンは、紫外線や水・酸素などのクリーンなエネルギーによって発現する酸化チタンの酸化力を利用し、有害な有機物を分解・除去します。これら光触媒効果を活用した、汚れ防止効果を付与した外壁や脱臭効果を付与したインテリア等が実用化されています。

事業紹介（電子材料・化成品事業）

	製品名	用途	概要
電子材料・化成品事業	界面活性剤		界面活性剤は、水と油の両方になじみやすい性質をもち、洗浄、乳化、分散、可溶化などの働きを利用して、洗剤、シャンプーなど生活用品から工業分野にまで広く使用されています。
	硫酸		硫酸は医薬品、化学肥料といった化学品産業から金属、鉄鋼といった重工業まであらゆる分野での基礎原料となっています。当社では、創立当初より硫酸の製造を開始。この硫酸を基礎原料に酸化チタン、界面活性剤の製造に着手してきました。
	無公害防錆顔料		当社は、リン酸塩の研究を長年続けた結果、世界に先駆けてリン酸塩Kシリーズ、無公害型防錆顔料の量産技術を確立し工業化したしました。地球環境にやさしい技術として、防錆剤、硬化剤、吸着剤など多用途に利用され高い評価を得ています。
	導電性高分子薬剤		白川英樹博士のノーベル賞受賞で知名度が広まった導電性高分子。添加物を加える「ドーピング」で、プラスチックのような電気が流れない絶縁体を電気が流れる「導電体」に変えます。当社はいち早くこの性質に着目し、当社固有技術と融合させ、様々な要求特性に対応した導電性高分子薬剤を開発。パソコンの駆動に欠かせないコンデンサに使用されています。
	圧電材料		圧電材料は、電圧を加えることで、伸縮を繰り返し振動する現象を利用して超音波を発生させることができます。エコー検査に使われる医療用超音波診断機はこの機能を利用しています。発生した超音波から画像を映し出すことで、エックス線などは使わず、体の中を安全に調べることができますので妊婦検診や心臓・腹部等の診断で多く使われています。